

平成31年度
令和元年度

学校評価推進計画

徳島県立富岡西高等学校

◎ 1 確かな学力を育成する (教務課, 進路・情報課)

		自己評価			学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画		評価		
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価	
確かな学力を育成する。	(全校レベル) I) 学習指導の充実 II) 課外学習の充実 (分掌レベル) 1) 言語活動の充実を図りながら、指導方法を工夫・改善し、わかる授業、力をつける授業を実践する。 2) SSH事業のもと、理数科教育を充実させ、応用力や発展的な学力の育成を図る。 3) 学習習慣の定着と活動記録の蓄積等の支援をする。「朝学」を計画的に実施し、有効活用を図る。 4) 補習授業を充実させる。 5) SSH事業のもと、アクティブラーニングやICT活用等、主体的な学習活動を促進して、高い志を持ち、一人一人が自らの在り方・生き方を考える生徒を育成する。 6) 各教科等における言語活動を充実させる。	1) ① 相互に授業参観を行う。期間は1年間随時とする。一人5回以上他の教員の授業を参観する。 ② 授業評価を10月に実施し、肯定的な評価を80%以上とする。その結果を10月以降の授業改善につなげる。	1) ① ②		(評定)	
		2) ① 理数科から難関大学、ブロック大(岡山大・広島大等)の合格者をだす。 ② 1・2年次に対して難関大・ブロック大進学希望者集会を実施する。	2) ① ②		(所見)	
		3) ① 「朝学」の10分間を活用し、各教科の小テストの実施を計画的に行う。 ② 学校内外の取り組みについて、「富西システム手帳」に定期的に記入させる。	3) ① ②			
		4) ① 補習では、大学入試センター試験で全国平均点以上の獲得と志望校に合格する学力をつけることを目指す。早朝補習と8限目補習、大学入試センター試験後に国公立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習を希望者対象に実施する。(3年次) ② 土曜日を活用した補習を希望者対象に2・3学期で11回実施する。(1・2年次) ③ 長期休業中の補習の出席率を90%以上とする。(1・2年次) ④ 外部より講師を招き特別授業を実施する。	4) ① ② ③ ④			
		5) ① システム手帳を活用させる。 ② オープンキャンパスへの参加を促す。各年次60%程度の参加を目標とする。 ③ 徳島県が主催するハイレベルセミナー、阿南市が主催する阪大連携事業、牟岐町で行われるサマースクール、京大連携事業等に積極的に参加させる。 ④ Innovation.Lab.室(進路室隣)を面接等に利用し有効に活用する。	5) ① ② ③ ④			
		6) ① 各年次で小論文模試を実施する。 ② グループディスカッションや面接指導・小論文に対する入試対策を実施する。 ③ 仮志望理由書を早い時期に書かせる。自己分析から自分の進路について考えさせ、表現させる。	6) ① ② ③			
		活動計画 1) ① 相互に授業参観を行う。期間は1年間随時とする。一人5回以上他の教員の授業を参観し、優れた部分は授業者に伝えるとともに、参観者が共有し、改善すべき部分は授業者に助言することにより教員一人ひとりの授業力向上を図る。 ② 10月に授業評価を実施する。授業評価の結果を各自が分析するとともに、教科会でも分析し、各自が授業改善に努め、教科会全体でも改善を図る。	活動計画の実施状況 1) ① ②			

	<p>2) ① 英語・数学の授業を習熟度別を実施する。</p> <p>② 教員が入試問題を分析し、生徒のレベルに応じた授業展開が実施できるようにするために、長期休業中等を利用して研究セミナー等に参加できる機会を設ける。</p> <p>③ 1年次は秋に、2年次は夏頃に難関大進学希望者集会を実施する。</p>	<p>2) ①</p> <p>②</p> <p>③</p>			
	<p>3) ・各教科と連携して小テスト等の実施計画を立て、生徒に周知する。 ・学校行事の後や、運動部・文化部の大会等の後日に「朝学」での記入日を設け、「富西システム手帳」を配布し、簡単な記録をさせる。</p>	<p>3)</p>			
	<p>4) ① ・早朝補習は英数国からの2教科選択制で4クールに分けて59回実施する。 ・8限目補習は理科、地歴・公民からの選択で火水木の放課後に実施する。 ・国公立大学の2次対策補習・私立大学一般入試対策補習では志望校合格を目指す。</p> <p>② 土曜日補習として、年間を通してテーマを絞った内容を提示して希望者を募集する。英数国より2教科を選択させて実施する。</p> <p>③ 夏冬の長期休業中に1・2年次は英数国の補習を、3年次には希望者を対象に、進学先に応じた入試対策補習を計画する。</p> <p>④ 代々木ゼミナールより国語の有名講師を招聘して特別授業を実施する。</p>	<p>4) ①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p>			
	<p>5) ① 年次集会のメモ用や日々の生活・学習記録にシステム手帳を活用させる。文化祭を通じてシステム手帳の活用啓発を行う。</p> <p>② 夏季休業中のオープンキャンパスや体験入学への参加を促す情報を提供する。自分から進んで活動することを促し、自らの進路や将来をしっかり考えさせる。</p> <p>③ 徳島県主催のハイレベルセミナーや阿南市主催の阪大連携事業や、サマースクール、京大連携事業等などへ積極的に参加するようによびかける。</p> <p>④ Innovation.Lab.室（進路室隣）を進路・情報課に関わる活動に限らず、部活動や各小規模な説明会等に活用してもらえるように学校全体に働きかける。</p>	<p>5) ①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p>			
	<p>6) ① 1・2年次は年1回、3年次では4回小論文模試を計画し、自分の考えをまとめ整理し、人に伝える力を養う。</p> <p>② 推薦入試や一般入試でディスカッションや面接を必要とする生徒を把握し、計画的に指導が行えるように進路・情報課でとりまとめる。</p> <p>③ 志望理由書添削キットを利用し、自己分析から自分の適性等を考え、文章表現させる。</p>	<p>6) ①</p> <p>②</p> <p>②</p>			

◎ 2 生活指導の充実を図る (生徒指導課, 教育相談課)

自己評価			学校関係者評価			次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			
			評価指標の達成度	評価	総合評価	
生活指導の充実を図る。	(全校レベル) I) 生徒指導の充実 II) 健康教育の充実 III) 教育相談の充実 (分掌レベル) 1) 基本的な生活習慣の育成に努める。	評価指標 1) ① 常時指導を重視し全校集会や年次集会時に、頭髪・服装検査を実施するとともに、基本的な生活習慣の確立を図る。	1) ①		(評定)	

	② 遅刻者を前年度より20%以上減少させる。	②		
	③ 朝学習遅刻指導を強化する。	③		
2) 規範意識を高め、社会人として通用するモラル・マナーを身につけさせる。	2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。	2) ①		
	② 交通マナーアップ講話の実施と交通事故防止に努め重大交通事故ゼロを目指す。(年間交通事故件数10件以内)	②		
3) 生徒一人ひとりを大切にしたい指導を通して、他者を思いやる心を育み、自尊感情を育てる。	3) ① 面接週間を年間4回、特別面接週間を年間2回(6・10月)実施する。三者面談を年間1回実施する。	3) ①		
	② 道徳教育用教材の活用を推進する。	②		
4) いじめの早期発見、早期対応に努め、適切な指導を図る。	4) ① 常時指導を重視し、年次集会や全校集会で教育相談課、人権教育課等と連携しいじめ防止指導を行う。	4) ①		
	② 学校いじめ防止基本方針に則りすべての教職員が連携し、「報告・連絡・相談」を図る。	②		
	③ 年間3回学校生活アンケート(7・11・3月)を行い、生徒の実態を把握する。	③		
	④ 年間4回の面接、2回の特別面接においていじめ防止の意識の高揚を図る。	④		
5) 生徒の悩みや相談に対応できるよう教育相談の体制を整え充実させる。	5) ① 相談室を必要に応じて開放する。	6) ①		
	② 教育相談研修会を年間4回実施する。	②		
	活動計画	活動計画の実施状況		
	1) ① 頭髪・服装検査(毎月)を実施する。	1) ①		
	② 毎週末、遅刻指導を実施する。	②		
	③ 朝学習遅刻指導を毎日実施する。	③		
	2) ① 携帯電話安全教室・薬物乱用防止教室を開催する。	2) ①		
	② 全校生徒および教職員を対象に交通マナーアップ講話を実施する。	②		
	③ 交通マナーアップ活動(生徒会・部活動で校門前のあいさつ運動・駐輪場の整頓・施錠の徹底)を実施する。	③		
	④ 自転車・原付自転車の整備点検し整備不良車は再点検を実施する。(年2回)	④		
	⑤ 毎月、学校安全の日に教職員による街頭通学指導を実施し、月～木に富西前交差点でも通学指導を実施する。	⑤		
	⑥ 原付免許証取得者を対象に阿南自動車学校で実技講習会を実施する。	⑥		
	3) ① 面接週間を4回、特別面接週間(6・10月)2回、三者面談を1回実施する。	3) ①		
	② 年次会で情報交換を行う。(随時)	②		
	4) ① 年次集会や全校集会を行う。教育相談課、人権教育課等と連携を図る。	4) ①		
	② すべての教職員が「報告・連絡・相談」の意識を強く持ち連携を図る。	②		
	③ 年間3回学校生活アンケート(7・11・3月)を行う。	③		
	④ 年間4回の面接、2回の特別面接を行う。	④		
	5) ① 相談室を積極的に活用し、いつでも相談室を活用して相談にのる態勢であることを知らせる。	5) ①		
	② 生徒の共通理解を図るために、年間4回の教育相談研修会を実施する。	②		

◎3 豊かな人間性と社会性を培う (特別活動課, 人権教育課, 総務・図書課, 国際・企画課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
			評価指標	評価指標の達成度	評価
豊かな人間性と社会性を培い、「学び合い、高め合い、支え合う」集団をつくる。	(全校レベル)				(評定)
	I) 特別活動の充実				(所見)
	II) 人権教育の充実				
	III) 読書活動の充実				
	IV) 国際理解教育の充実				
	(分掌レベル)				
	1) 部活動, 生徒会活動等を活性化し連帯感を持たせ, 主体性や協同の精神, 愛校心を育てる。	1) ① 部活動主将・部長会議を年間2回実施する。(必要に応じて適宜実施する) ② 各種研修会を年間2回実施する。 ③ 年間を通し生徒会, 部活動生徒により校門前で挨拶運動を20分間実施する。雨天時は昇降口で行う。	1) ① ② ③		
	2) 学校行事や部活動等とおして, 調和のとれた人間性を育成する。	2) ① 学校祭へ来校する一般者数を600人以上とする。 ② 学校祭をはじめとする学校行事の満足度は80%以上とする。 ③ 部活動への入部率を80%以上とする。	2) ① ② ③		
	3) ボランティア活動等とおして, 社会参加の意識を高め, 奉仕の心を育む。	3) ホームルーム活動で, クラスごとに学校周辺と桑野川河川敷の清掃ボランティアを実施する。	3)		
	4) 自らを尊重すると同時に他者を尊重し, 人権に対する鋭い感性を磨き, 常に相手の立場に立って考え行動することのできる人づくりをめざす。	4) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。 ② 教職員の人権学習ホームルーム活動事前研修を年間4回実施する。(5テーマ) ③ 「富西人権の日」を月1回実施する。	4) ① ② ③		
5) 日常生活の様々な機会をおして, 人権が尊重された環境づくりをめざす。	5) 人権に関する作品の作成をおして, 人権が尊重された環境について考える。	5)			
6) 人権問題に積極的に取り組む実践的な態度の育成を図る。	6) 人権委員会や社会問題研究部による啓発活動を実施する。	6)			
7) 読書活動の啓発を行い, 読書の習慣化を図る。	7) ① 「ライブラリーニュース」を定期的に年間8回以上発行する。 ② 年2回読書会を開催する。	7) ① ②			
8) 国際交流をおして, 異文化を理解するとともに, 自分の住んでいる地域の良さを再認識し, グローバル人材の育成を図る。	8) ① 言語活動をおして, 生徒に他国の文化の違いに関心を持たせる。(全クラス1講座以上) ② 海外の高校や大学と交流を行い, 自主性, 多様性, 協働性を養う。	8) ① ②			
	活動計画	活動計画の実施状況			
	1) ① 部活動部長会議を(4月・10月)に実施する。また, 必要に応じて開催する。 ② 各種専門委員会, ホームルームリーダー研修会を開催する。	1) ① ②			
	2) ① 学校祭を9月実施とし, 一般公開する。 ② 各行事終了後にアンケートを実施し検証する。 ③ 4月と2月で入部率を調査・把握する。	2) ① ② ③			

	3) ① ホームルーム活動の時間を利用して清掃ボランティアを実施。ゴミの回収から分別まで正確におこなう。	3) ①		
	4) ① 人権学習ホームルーム活動を年間6回実施する。 ② 各年次で人権学習ホームルーム活動の事前研修会を行う。 ③ 「富西人権の日」の人権に関する行事を企画・運営する。	4) ① ② ③		
	5) 人権に関する感想文・作文・標語・ポスター・作詞作曲・書道の作品作成に取り組む。	5) ①		
	6) ① 人権委員会で「じんげん富西」を作成し発行する。 ② 人権委員会の富西祭での啓発、社会問題研究部の自主研修を支援する。	6) ① ②		
	7) ① 図書委員会で「ライブラリーニュース」を作成し発行する。 ② 図書委員を中心に読書会の企画・運営をする。	7) ① ②		
	8) ① 中国語の授業を実施し、言語をとおして、交流校に対する興味・関心や、敬意を持たせる。 ② 実際に、海外の高校生との交流を行う。また、生徒個人の理解にとどまらないように発表会や、ポスターなどとおし、校内外に発信する。	8) ① ②		

◎ 4 生徒一人一人の個性・能力を伸ばし、進路志望の実現を図る (進路・情報課, 国際・企画課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価		
生徒一人一人の個性・能力を伸ばし、進路志望の実現を図る。	(全校レベル) I) 進路指導の充実 II) キャリア教育の推進	評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定)	
	(分掌レベル) 1) 生徒の能力、適性に合った進路実現を図るため、きめ細かな指導を行う進路指導体制の充実を図る。	1) ① PTA総会午後の学級懇談会、各年次部会、三者面談等で各年次に必要な進路情報誌を提供する。 ② 進路情報誌『道』を発行する。 ③ 生徒対象と保護者対象の2部に分けて各年次で進路講演会を実施する。 ④ 3年次の生徒を対象とした進路対策委員会を年間3回以上実施する。	1) ① ② ③ ④	(所見)	
	2) 計画性と体系性を持ったキャリア教育を展開する。望ましい職業観、勤労観または、人生観を育成し、地域をイノベートするグローバルな視点を養う。	2) ① (1年次) SSH教育課程のもと、1年次はTN-Scopeの時間を利用して、リベラルアーツおよびタスク活動をとおして課題研究に臨みながら地域の課題を見つけ出し、解決方法を見つける力を身につける。 (2年次) 総合的な学習の時間を利用して、研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間1回発表会を実施する。 (3年次) 志望理由書を作成し、併せて小論文を年間6テーマ以上実施し、表現力強化を目指す。 ② 地元企業の講義を設け、仕事とは何か、どのような考えが必要かを考えさせる。	2) ① ②		
3) 確かな学力を育成し、第一希望の進路実現を図る。	3) ① 年度末考査終了後、進学予定者に学力対策講座I・II・IIIを、就職等決定者には教養講座を実施する。(3年次) ② 第一希望方向への合格を60%以上とする。	3) ① ②			

		<p>活動計画</p> <p>1) ① 逆引き辞典・進学ガイドブック等良質な内容の進学情報誌等を選択し生徒・保護者に提供する。</p> <p>② ・『道』を7月7日に発行する。 ・『道』を使った特設ホームルーム活動では担任から進路設計の指導を行い、先輩の軌跡から学ばせる。</p> <p>③ ・学部系統別進路ガイダンスを3月に実施する。(1・2年次) ・就職・公務員・実技系専門学校対象とその他進学する生徒に分かれての進路別講演会を5月に実施する。(3年次)</p> <p>④ 進路対策委員会に必要な資料を作成する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>1) ①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p>		
		<p>2) ① 昨年まで行ってきた、地元企業・大学との連携、地域の様々な活動への参加等をSSH事業のもとで充実させキャリア教育を進める。 (1年次) SSH教育課程のTN-Scopeにおいて、課題解決に必要なスキルを身につけ、地域密着型課題研究に向け課題を考える。 (2年次) 総合的な学習の時間のもと、研究テーマに沿って自主研究を実施し、年間1回発表会を実施する。 (3年次) 3年次では志望理由書を作成し、併せて小論文を年間6テーマ以上実施し、表現力強化を目指す。</p> <p>② 「キャリア」への意識を高める講演・講義を行う。</p>	<p>2) ①</p> <p>②</p>		
		<p>3) ① 学力対策講座では青バック(駿台)・Kバック(河合塾)・大進研センター試験ファイナル(高予備)を全8日間で実施し、自己採点処理と校内でマーク成績処理をするとともに、実施後には補習や解説のできる時間を設ける。並行して行う教養講座では、外部講師を招聘して社会に必要な知識を身につけることのできる講座を行ったり、パソコンの資格取得を目指したりする。</p> <p>② ・全員の先生方に「チーム富西」として3年次生の進路指導の協力をお願いする。 ・3年次担当以外の教員にも進路情報等の提供を積極的に行う。</p>	<p>3) ①</p> <p>②</p>		

◎ 5 環境教育・防災教育を推進する (環境・防災課)

自己評価				学校関係者 評価	次年度への課題と 今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価			
環境教育・防災教育を推進する。	(全校レベル) I) 環境教育の充実 II) 防災教育の充実	評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価 (評定)	
	(分掌レベル) 1) 校内外の環境美化活動を推進し、公共心や奉仕の精神の育成を図る。 2) 防災クラブの活動を活性化し、防災リーダーの育成に努める。	1) ① 清掃に真面目に取り組んでいると考える生徒が90%以上とする。 2) ① 年間10日以上、防災クラブの活動をおこなう。 ② 防災に関する研修を年3回以上実施する。	1) ① 2) ① ②			(所見)
		活動計画	活動計画の実施状況			
		1) ① 校内の清掃活動を全員が時間いっぱい取組むよう徹底する。 ② 環境委員・部活動代表者対象にごみ分別教室を実施する。	1) ① ②			

	2) ① 防災クラブを中心に近隣の高齢者宅を訪問し、転倒防止器具の設置や避難済みを知らせるカードを配布する。 ② 地域の保育園児の避難誘導を、防災クラブ中心に高校生が支援できるようにする。 ③ 津波に備えて校舎の3・4Fに避難する訓練を実施する。大津波の場合は、高台（校舎の南の山）へ避難することを周知徹底する。	2) ① ② ③			
--	--	----------------	--	--	--

◎6 開かれた学校づくりに努める（教務課，総務・図書課）

重点課題	重点目標	自己評価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標と活動計画	評価			
		評価指標	評価指標の達成度	評価	総合評価	
生徒・保護者・地域から信頼される開かれた学校づくりに努める。	(全校レベル) I) 積極的な広報活動を行う。 II) 開かれた学校づくりを推進する。 III) 「働き方改革」・「学校改善」を推進する。 (分掌レベル) 1) 中学生体験入学，学校公開，地域説明会等を行い，積極的な広報活動を行う。 2) ホームページの充実を図る。 3) 学校評価と学校関係者評価を実施し，学校改善につなげるとともに教職員の職務状況を把握する。 4) PTA役員会，牛岐同窓会役員会等で積極的な意見交換を行う。	1) ① 中学生体験入学は，実施内容を改善し，アピール度の向上を図る。参加者は500名以上，参加者の80%以上が肯定的な感想を持つ内容とする。 ② 学校公開の参加者は50名以上とする。 ③ 地域説明会は4カ所で行い，合計の参加者は200名以上とする。 ④ 各中学校，年間2回以上訪問を行う。	1) ① ② ③ ④		(評定)	
		2) ① ホームページの更新を年間で200回以上行う。 ② 生徒が利用しやすい内容の掲載を考える。 ③ PTA・同窓会のページを充実させる。	2) ① ② ③		(所見)	
		3) ① 教職員による学校評価推進委員会を適宜開催する。また，3月中旬には学校評議員を招いて学校関係者評価を実施する。 ② 教職員の業務内容を見直し，負担軽減を図り，ワーク・ライフ・バランスの実現を目指す。 ③ 超過勤務の多い教職員と面談を持ち，職務の状況について相談する。	3) ① ② ③			
		4) PTA役員会を年4回実施する。各支部からの少なくとも1名以上の参加者を目指す。	4)			
		活動計画	活動計画の実施状況			
		1) ① 中学生体験入学では在籍生徒を主体的に活用するなど，より魅力的なものになるよう改善する。理数科の課題研究発表会を中学生向けに実施する。 ② 学校公開を10/25(金)に実施する。 ③ 阿南・羽ノ浦・小松島・美波地区で本校の教育活動等について説明する。 ④ 勝浦中学校・小松島中学校から日和佐中学校・木頭中学校間にある中学校を訪問する。	1) ① ② ③ ④			
		2) ① 更新担当者数を増やし，各課ごとで掲載記事を準備する等のホームページ運営組織を確立していく。	2) ①			

	<ul style="list-style-type: none"> ② 各課と相談して生徒に必要な情報は何かを検討し在学生も利用しやすい情報の掲載を目指す。 ③ 総務・図書課と相談し、保護者・卒業生への情報発信を頻繁に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ② ③ 			
	<ul style="list-style-type: none"> 3) ① 学校評価を行うことで学校の現状や課題について情報を共有化し、教育活動の活性化につなげる。 ② 時間外勤務を調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> 3) ① ② 			
	<ul style="list-style-type: none"> 4) ① 役員会の開催については、文書及びホームページで案内する。 ② ハガキ、新聞、ホームページで案内し、広報に努める。また、電話などの問い合わせに丁寧に対応する。 	<ul style="list-style-type: none"> 4) ① ② 			